

## ATELIER MUJI

### 『無印良品 -加賀谷優の仕事-』開催のお知らせ 開催のお知らせ

ATELIER MUJI(東京都:無印良品 有楽町内)は2014年9月19日(金)～11月16日(日)まで、  
『無印良品 -加賀谷優の仕事-』を開催致します。



大量生産・大量消費の時代に消費社会のアンチテーゼとして誕生した無印良品には、これまでの「優れた感覚のデザイナーに力を借りた商品開発」とは違ったデザインの新しい定義が必要でした。そこで私たちは無印良品の商品それ自体は目立ち過ぎず、謙虚でいながら斬新な精神を保ち続けていることに共感してもらえるデザイナーを探しました。

今回アトリエムジでは、この無印良品の考え方に賛同した、1人のプロダクトデザイナーによる商品を集め展示します。創成期から現在まで、30数年間にも及ぶ商品を透すと見えてくる、無印良品のかわらない思いをお伝えできたらと思います。

#### 【基本情報】

会場 | ATELIER MUJI

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-8-3 インフォス有楽町 無印良品 有楽町 2F

会期 | 2014年9月19日(金)～2014年11月16日(日) (59日間)

開場時間 | 10:00-21:00 入場無料

お問い合わせ | <http://www.muji.net/lab/ateliermuji/>

ATELIER MUJI WEB サイトでは、本展覧会の展示アイテムや会場の様子などをブログでもご紹介します。

ATELIER MUJI Blog | <http://www.ateliermuji.jp/blog/>

#### 【展覧会クレジット】

主催 | 無印良品

企画・運営 | 生活雑貨部 企画デザイン室・無印良品 有楽町 ATELIER MUJI

企画協力 | 加賀谷優

グラフィックデザイン | 6D 木住野彰悟

本展へのご取材・ご掲載に関するお問い合わせ TEL: 03-5208-8253 MAIL: [info@ateliermuji.jp](mailto:info@ateliermuji.jp)

## 【展示アイテム例】



クラフトステーショナリーシリーズ 1985

このノートは表紙に何も印刷されていません。しゃれたアルファベットの商品名もおしゃれなカラーもグラフィックも、表題を書き込む目安になる罫線さえも。しかし白いキャンバスに向かう時感じる高揚感や自由がこのノートにはあります。使う人それぞれがどのように使うかを考え、楽しんでアレンジを加えてはじめて完成する「自分だけのノート」。表紙には長期間使ってもダメージが少ないクラフトパルプ（古紙配合）を使用しています。



アルミ照明器具シリーズ 1990

光を効率的に前方に集中させる事が出来るレフランプとベース、ポールなどを組合せて使う照明器具シリーズ。床壁天井など、使う場所に応じた様々な種類があります。主要部分には頑丈で軽いアルミを使って、照明器具に必要な耐久性と統一感のある慎ましさが。復刻にあたって、光体を白熱灯から LED ランプに変更しました。



脚付きマットレス 1991

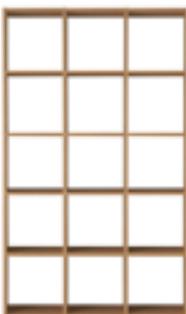
これはベッドを簡素化したものではありません。敷蒲団が空中に浮いている様に見える寝るための道具です。商品名「脚付マットレス」のとおり、マットレスに最少の脚が付いただけの商品本体は、枕を乗せ毛布や掛布団をかぶせると、脚もマットレスもみえなくなってしまう。

これはベッドでも布団でもないけれどベッドとしても布団としても使えます。さらに寝ていないときはソファでありベンチでありラグでありテーブルです。伝統的な和室がそうである様に。



PP 収納シリーズ 1997

素材そのままを生かしたものづくりを目指していた無印良品では樹脂の収納用品シリーズに透明樹脂を選んだのはごく自然なことでした。しかし樹脂を長期間使い続けると黄ばんでくるのを避けるため黄変防止剤を加えた樹脂は透明ではなく半透明になってしまいます。その素材の性質を逆手に取って、仕舞ったものの存在感は消しながらその気配だけを外に伝えるポリプロピレンの収納ボックスシリーズは生まれました。1984年から始まった商品開発は97年に一新し、現在は使う目的に合わせて選べる各サイズが揃っています。大きさの違うボックスを組み合わせても、モジュールが統一されているのですっきりとコーディネートできます。このモジュールは家具とも連動していてシェルフにきっちり収まります。



スタッキングシェルフ 2008

大きさや色や形の違う様々なモノを仕舞ったり、部屋の仕切に使ったり。あるいは壁いっぱいに広げて使う事もできるし、狭い部屋のちょっとした棚としてだったり。お願いすれば何でも聞いてくれる気前のいい親類のおじさんのようなシェルフです。いっけん目立たないデザインに見えますがシェルフの本懐である「背景に徹する」べく考えぬかれ、使う人が自分らしさを加えてはじめて完成する、何の銜いも無い潔いかたちが出来ました。